

(別紙様式10)

## 平成30年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分: 萌芽的異分野連携共同研究      共同推進研究  
産学官連携フィージビリティ・スタディ  
共同研究集会      産学官連携課題設定集会  
研究課題名: 北極域における自治と基地—視点の相対化に向けて—  
研究期間: 2018年度

共同研究員	氏名	所属・職名	専門分野	
研究代表者	齊藤孝祐	横浜国立大学・特任准教授	安全保障論・米国安全保障政策	
研究分担者 (拠点外)	川名晋史	東京工業大学・准教授	安全保障論・基地研究	
	小泉悠	未来工学研究所・特別研究員	安全保障論・ロシアの安全保障政策	
	波照間陽	早稲田大学大学院・大学院生	安全保障論・基地研究	
研究分担者 (拠点内)	高橋美野梨	北海道大学・助教	地方自治論・デンマーク政治研究	
研究協力者 (注2)	清水文枝	国際情勢研究所	安全保障論・基地研究	

(注2) 計画申請書に含まれていなかった方でも結果的に本共同研究に参画された方(招へい者等)が居られれば、研究協力者として記述して下さい。

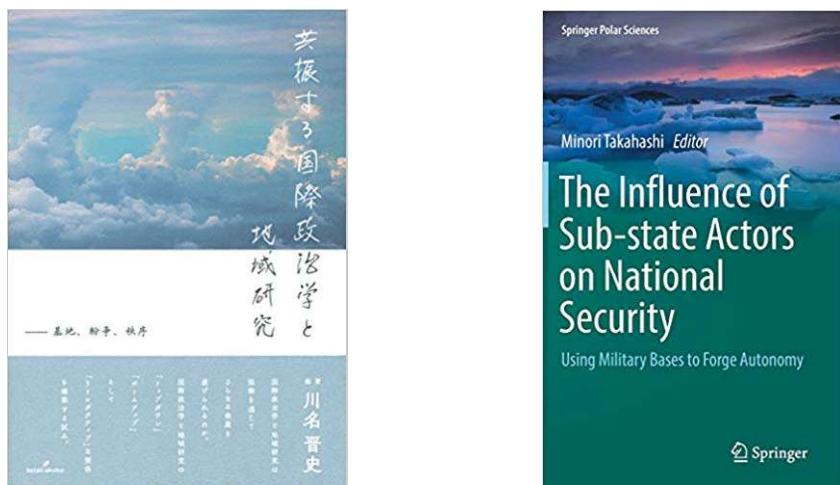
### 【研究の内容】

(1) 図表や写真も交えて、研究の内容や成果等を1000字程度で簡潔に以下にまとめてください。

本研究「北極域における自治と基地—視点の相対化に向けて—」は、H28年度及びH29年度北極域共同研究推進拠点事業において得られた成果を拡張し、理論的示唆や一般性という点からさらに分析を進め、北極域を題材とする研究として、政治学的により高い価値を持った研究へと展開することを目指したものであった。そのために、自治と基地の関係性を問ううえで類似の政治構造を持つにもかかわらず、グリーンランドとはやや異なる政治的帰結に至った沖縄・フィリピン

の事例を比較対象として取り上げ、①北極域の地域的分析から得られた視点を可能な限り相対化・一般化することを試みると同時に、②それを再度、北極域における自治と基地をめぐる議論にフィードバックし、政治学研究としてより高い信頼性を備えた議論へと昇華させていくことを狙った。

本研究は、二つの異なる文脈において、大部の成果を創出することができた。第一に、Springer 社から発行した共著 *The Influence of Sub-state Actors on National Security: Using Military Bases to Forge Autonomy* (Minori Takahashi ed., Springer, 2019) においては、グリーンランドの自治拡張と基地の関係性について理論的・実証的な分析を行い、さらにそれを沖縄・フィリピンの事例と対照させることで、知見の相対化を行った。第二に、北極域／グリーンランドの基地問題をめぐる協働分析の手法を地域研究と国際政治学の関係性をめぐるひとつのモデルとして整理し、別の共同研究へと拡張させることで、『共振する国際政治と地域研究—基地・紛争・秩序—』(川名晋史編、勁草書房、2019 年)のかたちで邦語出版した。



これらの成果については、2018 年度「研究者コミュニティ支援事業・共同研究集会」の枠組み（代表：高橋美野梨）と連動させ、国内の成果普及につとめたほか、笹川平和財団の協力を得て東京で一般公開シンポジウムを実施するなど、アウトーチの充実化にもつとめた。

○開催情報の URL:

<https://www.spf.org/asia-peace/news/20190125.html>

<http://j-arcnet.arc.hokudai.ac.jp/news/21917/>

(2) 本共同研究に関連する活動（出張、研究打合せ、会合等）を実施した場合には、延べ参加人数が算出できるように、下表に記入してください。

日程(月 日)	日数 A	活動内容	場所	共同研究員・研究協力 者の参加者名	参加者数 B	延人数 A × B
2019 年 2 月 7-9 日	3	研究打合せ	札幌	齊藤孝祐、川名晋史、 小泉悠、波照間陽、高	6	18

			橋美野梨、清水文枝		
--	--	--	-----------	--	--

### 【研究論文や著書等】

著者名(共著者名含む)、発行年、論文タイトル、掲載誌名、巻・号、ページ数、DOI、査読の有無、インパクトファクター(IF、分かれば)、分野(表下にある(注 3)から一つ番号を選択)を記入して下さい。

著者名、発行年、論文タイトル、掲載誌名、巻・号、ページ、DOI	査読の有無	IF	分野(注 3)
Minori Takahashi ed. (2019), <i>The Influence of Sub-state Actors on National Security: Using Military Bases to Forge Autonomy</i> , Springer, 140pp (ISBN: 3030016765). Coauthored by Shinji Kawana, Kousuke Saitou, Yuu Koizumi, Shino Hateruma, and Ayae Shimizu.	○	-	②
川名晋史編『共振する国際政治と地域研究—基地・紛争・秩序—』勁草書房、2019 年、285 頁 (ISBN : 4326302739)。共著者：高橋美野梨、齊藤孝祐、小泉悠、堀場明子、福田毅、山崎周、今井宏平、東野篤子、溝渕正季。		-	②
高橋美野梨、齊藤孝祐ほか (2018) 「北極環境変化の社会への影響」 北極環境研究コンソーシアム (JCAR) 『北極環境研究の長期構想 (増補改訂版)』 86-100 頁、 <a href="https://www.jcar.org/planning/longterm/">https://www.jcar.org/planning/longterm/</a> 。		-	②
高橋美野梨、齊藤孝祐、川名晋史、小泉悠 (2018) 「北極域の安全保障をめぐる国際政治学的研究」『三菱財団研究・事業報告書 2017』公益財団法人三菱財団。		-	②
清水文枝 (2019) 「米軍基地と基地政治—サービス海軍基地がもたらした影響—」 国際情勢研究所『国際情勢紀要』第 89 号、178-186 頁。		-	②

(注 3) 分野:① 環境&地球科学 ② 人文社会系 ③ 工学 ④ 基礎生命科学 ⑤ 化学  
 ⑥ 材料科学 ⑦ 物理学 ⑧ 計算機&数学 ⑨ 臨床医学

### 【研究発表】

以下の事項をご記入ください。

発表年月日、発表者名(共著者を含む)、発表タイトル、発表学会等名称、発表地(国、県、市など)、招待講演についてはその点も明記してください。

発表年月日	発表者名	発表タイトル	発表学会等名称	発表地	招待講演(○)
2018. 5. 21	高橋美野梨	「北極域におけるパラディプロマシー：北極政治を理解するために」	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター平成 30 年度公開講座	札幌	

2018. 9. 26	Takahashi, Minori	“The emergence of Cold-War-like power relations in the post-Cold War era and their influence on sub-state actors in the Arctic: Thule Air Base as the study case.”	World Social Science Forum 2018.	Fukuoka, Japan.	
2018. 12. 6	Shimizu, Aya	“Rethinking US Strategy in Southeast Asia: The Role of US-Japan Alliance and US-Philippine Alliance.”	The 6th JSA ASEAN Conference 2018, Global Dynamics Impacts to Japan-ASEAN Relations.	Jakarta, Indonesia.	
2018. 12. 18	齊藤孝祐	「北極戦略の新局面—米 国の現状と論点—」	北海道大学低 温科学研究所 研究集会（グリ ーンランド）	札幌	

【特許等】

該当なし。

【本共同研究の枠組みで実施した集会(注4)等】

(注4) 共同研究者、研究協力者、招へい者以外を含む参加募集によるもの)

実施日	実施地	集会等名称	発表名・概略内容	対象者	参加人数 ( )
2019.1.25	東京	「『共振する国際 政治学と地域研 究』出版記念シン ポジウム	本研究成果の一部である同 書の出版にあたり、学術的に 国際政治学と地域研究の協 働が進む意義、および、両者 の協働が国際協力の実践に 示唆するものは何かを考え ることを目的とした一般向 けのシンポジウムを開催し た。(本プロジェクトからは 川名・高橋が登壇)	研究者及び 一般向け	80

2019.2.8	札幌	「自治と米軍基地 —グリーンランド・ 沖縄・オロンガボ ー」	本研究の成果の一部である <i>The Influence of Sub-state Actors on National Security</i> の出版にあたり、同書の内容 を簡潔に披露したうえで、ア メリカとローカルな人々の声 の相互作用について考 えることを目的として、一般向け のシンポジウムを開催した。 (本プロジェクトの参加者全 員が登壇)	研究者及び 一般向け	43
----------	----	---	--	---------------	----



【自治と米軍基地セミナー】

(2019.2.8)



【共振する国際政治学と地域研究シンポジウム】

(2019.1.25)

### 【本共同研究の発展】

本研究は H28-30 年度間の助成をまとめたものであるが、この間、三菱財団からの助成や笹川平和財団からの支援を得て、今年度の成果発表に至っている。本研究課題は今年度の成果発表をもって終了となるが、本研究の成果をもとにして、①グリーンランドをめぐる中国の投資問題にヒントを得た投資問題研究会の立ち上げ(齊藤)や、②北極域をめぐる新たな共同研究への接続(高橋)を模索しているほか、③米軍基地の配置をめぐる新たな比較研究プロジェクトが開始されており(川名・高橋・齊藤)、それぞれに新規の外部資金申請の可能性を探っているところである。

### 【アウトリーチ、取材、その他】

- ・ 川名晋史、高橋美野梨「グリーンランド『本土』と対等」(3 面)、「自立、平和 構築へ歩み」(12-13 面)『琉球新報』2018 年 5 月 5 日付朝刊。
- ・ 高橋美野梨「【世界を読む】世界最大の島グリーンランドに中国が接近…一带一路は北極へ」『産経ニュース (web)』2018 年 5 月 1 日付。  
<https://www.sankei.com/west/news/180501/wst1805010001-n1.html>
- ・ 高橋美野梨「グリーンランド標的『一带一路』は北極へ」『産経新聞』2018 年 5 月 2 日付夕刊、5 面。